

お給仕の心得

日常の作法や荘厳に関する心得を解説し、具体的な実例案などを紹介して、ポイントを示します。

〔お参りの手順〕

- (1) 仏壇の前に座り、仏具の飾り方が間違っていないか、お花が枯れていないかをチェックします。
- (2) 花の水を替え、お仏飯をお供えします。
- (3) ロウソクに火をつけます。
- (4) 線香に火をつけ、炎を消してから、香炉の灰の上に寝かせて置きます。 本数に決まりはありませんが、2～3本を香炉に入れるように折って使います。
- (5) お念珠を手に、合掌（南無阿弥陀仏…）して礼拝します。
- (6) お経本を頂いて開き、いずれかのお経を読みます。
お経を読まない時は、鈴をたたきません。
- (7) 読経がすむと、お経本を閉じて、再び頂いて きょうじよく 経卓に置きます。
- (8) 再度、合掌（称名念仏）して礼拝します。
- (9) 「御文章」を拝読します。
- (10) 再度、合掌（称名念仏）して礼拝します。
- (11) 「拝読 浄土真宗のみ教え」をお読みになるのもたいへんよいと思います。
- (12) ロウソクの火を消し、電源のスイッチを切り、線香も確認し、火の始末を完全にします。

朝、出勤等で時間がない時や、夜、生活の時間帯がバラバラで、家族そろって毎日お勤めができなくとも、できるだけ家族がそろう時に、一緒にお参りさせていただき、ともどもに阿弥陀如来さまの「決してひとりぼっちにしない」というはたらきに気づかせていただいたり、共に、「お育ての中」にあることをよろびたいものです。

〔お花〕

毎朝仏花の水替えをしますが、夏やエアコンの入っている部屋では、ひんぱんに

水を替えた方がいいでしょう。

お花は常に枯れる前に替えて、絶やさないように心がけます。

〔お香〕

香炉には、灰と香、香炉火以外は入れません。灰がたまってきたら、上をすくって捨てます。表面はなだらかにならしておきます。

〔清掃〕

仏壇の安置されている部屋を、仏間といいいつも清潔に保ちます。

仏壇の内部や仏具は、常に気をつけて、毛ばたきなどで掃います。汚れが目立つときは、きれいな布や化学雑巾で拭きます。

最近、漆器専用の洗剤もあるようですが、仏壇は金箔や漆が多用されていますので、水拭きは厳禁です。

〔整理〕

線香やロウソク等は、絶やさないようにチェックしておきましょう。

線香やロウソクのストック、マッチ、ライター等は、お仏壇の中やきょうじよく経卓の上には置きません。

引き出しの中や、経卓の周囲に、整理しておきましょう。

〔お仏壇の扉〕

原則として、朝開けて寝る前に閉めます。仏事の歳に開けるだけで、普段は閉めっぱなしというのはさけないものです。

「幼児がいて、仏具をふれるので…」と、閉めっぱなしにされる方がありますが、やはり仏具の置き場所を工夫して、閉めっぱなしは避け、いつでも如来さまのお慈悲を、身近に拝める状態にしておきたいものです。

〔お供もの〕

頂きものがあると、まず阿弥陀如来さまにお供えして、おさがりとして頂戴しましょう。また、子どもの成績表や合格通知、記念品などもまず如来さまにお供えをして、その前で家族そろってよろこびを分かち合ったり、おさがりとしていただくなどして、如来さま中心の生活を心がけたいものです。